

## 韓国語の副詞 ‘잘[tʃal]’ の語順教育について

### Teaching About Word Order of the Korean Adverb 잘 [tʃal]

金 世 朗

KIM SERANG

#### ABSTRACT

Our goal in this paper is to focus on the adverb 잘 [tʃal] in order to reveal its characteristics and trends in use, based on corpus data. The results of our investigative analysis of 잘 [tʃal] in corpora led to an understanding of typical verb-modifying adverbs, their basic positions immediately preceding declinable words, and their range of movement within predicates. As the reasons for the removal of 잘 [tʃal] from the front of declinable words, we saw solid trends such as compound words, idiomatic usage, negative sentences, adnominal clauses, particle insertion for the sake of emphasis, and particle omission. The findings of this paper suggest more systematic and concrete ways of teaching the placement of adverbs in Korean word order than have existed to date.

Keywords : 副詞の語順教育、副詞の正常位置、移動の範囲、移動の理由、コーパス

#### 0 はじめに

現在、韓国語教育では、副詞は修飾する用言のすぐ前に置かれるものであると、簡潔に指導を済ませている。しかし、実際には、それほど単純に割り切ることのできない問題である。いくつかの例外もあり、学習者の間違いも生じやすく、教育の現場ではその指導に困っている。金(2015)では、韓国語教育における副詞の語順教育の問題点を指摘し、韓国の国語学における副詞の先行研究を調べて分析している。その結果、成分副詞<sup>(1)</sup>は修飾する言葉のすぐ前に置くという基本的ルールのもとに、述語の成分(形容詞か動詞かなど)によって位置移動の自由さに相違があることと、場合によっては文体的な理由から述部内で位置移動が可能なが判明した。しかし、これには研究者の間の意見の相違があるうえに、副詞はそれぞれ異なる特徴を持つため、正確な語順の特徴を知るためには、副詞一つ一つの意味機能と語順を結び付けて考える必要があるという課題が残された。筆者は、現

在日本人韓国語学習者が多用し、語順における誤用の多い副詞に着目し、コーパスを用いて、それらの語順の特徴を明らかにする研究を進めている。本稿は、その中でも位置移動に最も厳しい制限があると言われている副詞 ‘잘[tʃal](よく)’ に着目し、副詞の語順についての定説及び先行研究の検証をはかり、その語順における傾向や特徴を明らかにすることを目的とする。

## 1 先行研究における成果と問題点

### 1.1 韓国語教育における先行研究

- (1) a. 영이가 노래를 잘 부른다. (ヨンイが歌を上手に歌う。)<sup>(2)</sup>  
 b. ?영이가 잘 노래를 부른다. (?ヨンイが良く歌を歌う。)  
 c. ?잘 영이가 노래를 부른다. (?良くヨンイは歌を歌う。)

韓国語教育において教師及び学習者に最も多く参考にされている『韓国語文法辞典』(白(2004:30))では、「副詞の場合にも文章を修飾する副詞は比較的自由に移動するが、動詞や形容詞を修飾する副詞は語順の移動が自由ではない」と書いてある。(1)で示すように、잘[tʃal]の位置は修飾用言である動詞「부른다(歌う)」の前であり、それ以外の場所に位置することはできないということである。이(2003:157-159)では、初級学習者は副詞は修飾する述語の前に置くという絶対的なルールを守らず、(2)のように、目的語の前におく誤用がよく見られると指摘している。

- (2) 그래서 많이 한국어 책을 읽고 싶습니다(✓그래서 한국어 책을 많이 읽고 싶습니다)  
 それでたくさん韓国語の本を読みたいです(✓それで韓国語の本をたくさん読みたいです)<sup>(3)</sup>  
 (イタリア人学習者、初級)
- (3) 줄 얘기를 하다가 친구 자동차로 이동해서 식당에 가서 비빔냉면을 먹었습니다.  
 (✓얘기를 줄 하다가 친구 자동차로 이동해서) (3급)  
 少し話をして友達車で移動して食堂に行って冷麺を食べました。  
 (✓話を少しして友達車で移動して)

日本人学習者の副詞使用に関する全般的な問題を扱った정(2004)は、日本人学習者は、副詞を文頭に置く傾向が見られ、韓国語の副詞は文頭におけないことを指導する必要があると述べている。しかし、(3)で見えるように「文頭」というのは目的語「얘기를(話を)」の前を指しており、述語の動作主「저는(私は)」が省略されているだけなので、副詞は述語の前に置くべきであるという이(2003)と何ら変わりがない。他に、日本で出版されている

韓国語学習関連書も、一貫して副詞の位置は用言の直前であると簡潔に述べているだけで(金(2015:66-67))、韓国語教育学では、副詞は用言の前に置くべきという前提での誤用分析や指導を行っていることがわかる。

## 1.2 韓国の国語学における先行研究

一方、韓国の国語学における副詞の語順研究においては多様な意見が見られる。形容詞を主に修飾する程度副詞に関しては、その位置移動に制約が厳しいということで、多くの研究者の意見が一致している(손(1995:100-108)、朴(1976:153、154)、임(1999:167)、홍(2003:190)、고·구(2014:130、140))。しかし、動詞を主に修飾する副詞に関しては、移動が不可能であるという意見と移動が可能であるという意見に分かれている。

손(1995)は、(4)で示すように様態副詞(動詞修飾)を程度副詞(形容詞修飾)と一緒に、用言のすぐ前においてその意味を修飾限定すると述べ、位置移動に制約のある「制約副詞」に入れている。

- (4) a. ?많이 학생이 밥을 먹었다. (?たくさん学生がご飯を食べた。)  
 b. ?학생이 많이 밥을 먹었다. (?学生がたくさんご飯を食べた。)  
 c. 학생이 밥을 많이 먹었다. (学生がご飯をたくさん食べた。)

一方、移動の理由や範囲に関しては触れていないが、최(1965:575)は、副詞が動詞を修飾する時、その間に他の言葉をおいて、その後ろの述語を限定することがよくあると指摘している。さらに、朴(1976)と성(1992)では、移動の理由や範囲に関して以下のように詳しく述べている。

- (5) a. 순이는 부엌에서 밥을 급히 먹었다. (スニは台所でご飯を急いで食べた。)  
 b. 순이는 부엌에서 급히 밥을 먹었다. (スニは台所で急いでご飯を食べた。)  
 c. 순이는 급히 부엌에서 밥을 먹었다. (スニは急いで台所でご飯を食べた。)

(5)で見えるように、朴(1976:151-154)は、먹다(食べる)は義務的に目的語を要求し、場所も要求する。この場合、主動詞以外に他の要素が加わり、VPを構成し、この場合の副詞は、VPが支配する範囲ならどこでも移動できると指摘している<sup>(4)</sup>。しかし、副詞は動詞の前におくのが最もよく、移動は文体上の理由によるものであると加えている。

- (6) a. 영이는 노래를 잘 부른다. (ヨンイは歌をよく歌う。)  
 b. 영이는 잘 노래를 부른다. (ヨンイはよく歌を歌う。)

c. ?잘 영이는 노래를 부른다. (?よくヨンイは歌を歌う。)

성(1992:130-132)は、깊이(深く)、많이(たくさん)、다(すべて)、잘(よく)、고루(等しく)などの副詞は、文頭には置けないが、目的語の前後など述部内では位置移動が可能な「叙述部自由語順副詞語」とし、しかし述語の前を最も好む「叙述後指向的語順副詞語」でもあると指摘している。

(7) a. 철수가 밥을 빨리 먹었다. (チョルスがご飯を速く食べた。)

b. 철수가 빨리 밥을 먹었다. (チョルスが速くご飯を食べた。)

c. (?)빨리 철수가 밥을 먹었다. (速くチョルスがご飯を食べた。)

임(1999:163-164)も、(7)を挙げ、動詞や存在詞を修飾する副詞は文章の一番最初に置くのは不自然だが、目的語や述語の前に置くのはよいとしている。しかし、副詞の正常位置においては、動詞の前ではなく、目的語の前であると述べ、朴(1976)・성(1992)と意見を異にしている。임(1999)は、生成文法の理論を用い、副詞の正常位置は目的語の名詞句節の前であり、動詞のすぐ前に副詞があるのは、目的語が文法上の理由により移動したものと見ているのである。ここで一つ、前述の정(2004)でも触れていた「文頭」あるいは「文章の一番最初」というものは何かを考える必要があるだろう。성(1992)と임(1999)の例を見ると、(6)は「영이(는)는(ヨンイは)」の前を、(7)は「철수가(チョルスが)」の前を指しており、それぞれ「부르다(歌う)」や「먹다(食べる)」の動作主であることがわかる。即ち、ここで言う「文頭」というのは副詞の修飾対象となっている述部の動作主のことを指しており、それは、単に主語が省略されて副詞が文頭に位置していた정(2004)の「文頭」とは異なるものであることが確認できる。

以上で韓国の国語学における先行研究について見てきたが、次のような疑問や問題点を感じる。まず、いずれも動詞を主に修飾する副詞の語順に関する事なのに、研究者間で移動の自由さや移動範囲に関する意見が異なる。また、用例に用いている例文の正否判定に違いが見られ、理論そのものへの信頼度が落ちる。例えば、(1)bと(6)bは、両方とも副詞が目的語の前にある「영이가(는) 잘 노래를 부른다(ヨンイが(は)よく歌を歌う)」という例なのに、(1)では非文として、(6)では正文として扱われている。また、(4)と(5)、(7)は、いずれも「먹다(食べる)」という動詞を修飾用言としていながら、副詞の位置に関する研究者の意見が異なっている。これは、研究者の内省による文判定に問題があることを示唆している。さらに、副詞の移動理由として、朴(1976)は文体上の理由を挙げているが、どのような場合でも文体上の理由なら移動できるものかなど、移動の理由に関する指摘が曖昧すぎることも注意すべきであろう。

以上で見るように、韓国の副詞の語順に関しては、研究者によってさまざまな意見があることや、問題があることが確認できた。本稿では、잘[tjal]に着目し、コーパスを利用して、次のことを中心に検証していきたいと思う。まず、副詞が形容詞か動詞かによって位置移動の自由さが異なるという先行研究に基づき<sup>5)</sup>、잘[tjal]はどのような用言と共起しており、韓国語教育学で言われている通り、その基本位置は用言の直前なのかを検証する。そして、副詞の位置が用言の前でない場合があるなら、その副詞の移動範囲はどのようなもので、そこには特定の傾向が見られるかを中心に分析していくことにする。

## 2 잘[tjal]の語順について

### 2.1 잘[tjal]はどのような副詞なのか

以下の表は、잘[tjal]についての辞書的意味と研究者の意見をまとめたものである。

<表1> 잘[tjal]の辞書的意味と語順に関する先行研究

辞書的意味	잘[tjal]チャル]副詞 よく。 ①立派に、見事に、上手に、うまく、巧みに ②～を上手に(する)、～をうまく(する) ③詳しく、十分に、はっきり ④無事に、元気よく ⑤十分に、満身に、思う存分 ⑥しばしば、たびたび ⑦都合よく、折よく ⑧正しく ⑨美しく、きれいに、見目よく ⑩よろしく ⑪<数量を表す語に付いて>優に、たっぷり 『朝鮮語辞典』(p1488)	
	정(2004)	語順における学習者の誤用が多く注意すべき副詞(p69)。
先行研究	남·고(2014)	<u>否定副詞と成分副詞の中で '잘(よく)、呑(少し、ちょっと)、' のように位置替えをしないものがある。これらは必ず述語の前だけに使われる(p285)。</u>
	서(2008)	代表的な動詞修飾副詞、存在詞とも共起可能。形容詞と指定詞は共起不可(p35、p130)。 <u>必ず用言のすぐ前に置く。「名詞하다(する)」動詞でも 잘は動詞「하다(する)」の前に置くべき(p27)。</u>
	임(1999)	動詞と存在詞を修飾し、他の成分副詞と違って <u>用言の前だけに位置する。</u> 制約がきびしく、別途扱いが必要(p164)。
	성(1992)	文頭には置けず、 <u>叙述部内では位置移動が可能。ただ、述語のすぐ前が最も自然(p130)。</u>

고(2009)では、副詞잘[tjal]を、韓国語の高頻度基本動詞と最もよく共起する副詞として挙げている。それだけ、日常でよく使用する副詞であるということだが、<表1>で見るように、잘[tjal]の意味は多様であり、広く使用される副詞であることがわかる。また、先行研究によると、잘[tjal]は学習者の語順における誤用が多く見られる副詞であることと、必ず用言の直前に置くべきで、否定副詞と同様、語順に厳しい制限がある副詞であることがわかる。

## 2.2 資料と分類法

資料として用いたのは韓国の国立国語院が制作したセジョンコーパス<sup>(6)</sup>である。セジョンコーパスの現代韓国語コーパスは、大きく現代文語と現代口語に分けられるが、今回は、現代文語の中から形態分析、一般副詞という3つの条件を与え、잘[tʃal]を検索した<sup>(7)</sup>。データ数は13,856例得られたが、重複する例や間違えて検索された例を削除し<sup>(8)</sup>、結果10,799例を対象とすることになった。また、この研究は副詞の基本語順が用言の前であるかを検証するためのものなので、その後部にどのような言葉が来ているかを中心に分類を行った。分類は、大きく、用言(動詞、形容詞、存在詞、指定詞)、副詞、名詞、その他(並列、잘で終わるもの)に分けた。形容詞の場合、-지다(くなる)・-하다(がる)などが付くと品詞は動詞になるが、形容詞に入れた<sup>(9)</sup>。

「名詞+助詞+動詞」の例

(8)예의 바르다는 것은 주변 환경과 잘 조화를 이루는 것을 말한다.(11119)<sup>(10)</sup>

(礼儀正しいと言うことは周辺環境とよく調和を成していることを意味する。)

また、(8)で見るとように副詞잘[tʃal]の後ろに用言がすぐ続かず、「조화를 이루는(調和を成している)」のような例がある際は、「名詞+助詞+動詞」という項目をもうけて分類した。

「並列」の例

(9)직원들 월급 잘, 제때, 많이 줘야 하고.(11381)

(職員の給料、よく、ちゃんと、たくさんあげないとだめで)

用例の中には、(9)のように잘[tʃal]と修飾関係のない他の副詞と単に並べられている例もあり、これらは「並列」に入れて分類した。

## 2.3 分析結果

<表2> 잘[tʃal](10,799例)の直後にあるもの

用言(10356例:95.90%)	動詞(10352例:95.86%)、存在詞(3例:0.03%)、指定詞(1例:0.01%)
副詞(371例:3.44%)	否定副詞(353例:3.27%)、一般副詞(18例:0.17%)
その他(6例:0.06%)	並列(3例:0.03%)、잘で終わる(3例:0.03%)
名詞(66例:0.61%)	名詞で終わる(2例:0.02%)
	名詞+助詞+動詞(64例:0.6%)

\* 1、「否定副詞」は、353例すべて動詞の否定形であった。

\* 2、「一般副詞」18例のうち、17例がすぐ後ろに動詞があり、1例が「名詞+助詞+動詞」であった。これで、잘[tʃal]の後に「名詞+助詞+動詞」の形が続く例は合計65例になる。

\* 3、「並列」の3例とも述語が動詞である。

2.3.1 잘[tʃal]はどのような用言と共起しており、その基本位置はどこか

<表2>は、副詞잘[tʃal]の後部に何が置かれているかを中心にまとめたものである。それによると、分析対象10,799例に対し、その95.9%に該当する10,356例が用言であった。

(10) a. 아이들에게 밥을 잘 먹게 하는 요령(1797) : 「動詞」の例

(子供にご飯をよく食べるようにするコツ)

b. 일상생활에서는 한국어를 잘 몰라 불편하긴 하지만 그런대로 지낼 만하다.(9331)

(日常生活では韓国語がよくわからないから不便ではあるけど、なんとか過ごせている。)

(11) 요즘 사람은 개 사는 데에도 돈 때문에 사지, 집 지키라고 사는 사람은 잘 없다(10353)

(最近の人は犬を買うのもお金のためであって、番犬用に買う人はあまりいない。)

: 「存在詞」の例

(12) 아주 잘 말이에요. (2512) : 「指定詞」の例

(とてもうまくということです。)

また、잘[tʃal]が修飾する用言は、形容詞を修飾する例は1例もなく、(10)のように動詞を修飾する例がほとんどで10,352例(95.86%)あった。他に、(11)で見えるように存在詞の場合が3例、(12)で見えるように指定詞が1例見られた。서(2008)では、잘[tʃal]が指定詞とは共起不可となっているが、(12)を見ると、잘[tʃal]が後ろの指定詞を修飾するというより、後ろの「말이다(ということだ)」が잘[tʃal]を強調するために使用されていることから特殊な例といえる。

(13) 김치는 도통 잘 안 먹었다.(156) : 「否定副詞」の例

(キムチは全然よく食べなかった。)

(14) 우리 김선생 좋은 사람이니까 잘 좀 부탁드립니다.(6810) : 「一般副詞」の例

(キム先生はいい人だからよろしくちょっとお願いします(どうかよろしくお願いします))

続いて、잘[tʃal]のすぐ後ろに用言が続かない場合を見ると、副詞と副詞が重なって使用される例が最も多く、特に否定副詞(353例:3.27%)との共起が目立つ。否定副詞 ‘안[an]’ と ‘못[mot]’ は用言の最も近くに位置する副詞として知られている。また、一般副詞が続く例が18例見られたが、(14)で見えるようにこれはすべて副詞좀[tʃom](少し、ちょっと)であった。좀[tʃom]は、依頼文で口調を和らげてくれる役割をする、日本語の「ちょっと」に近いものである。副詞同士の語順を考えた場合、用言を直接修飾する 잘[tʃal]より語用論

的な使い方をする 좀[tjom]が、より用言の近くに位置することは興味深い。

(15)직원들 월급 잘, 제때, 많이 줘야 하고.(11381) : 「並列」の例

(職員の給料、よく、ちゃんと、たくさんあげないとだめで)

(16)그게 뭔지 잘…….(11385) : 「잘で終わる」の例

(それが何かよく、、)

(17)지방관계 공약 잘 정리 능력 인정 (9712) : 「名詞で終る」の例

(地方関係公約よく整理能力認定)

その他、(15)で見るとように他の副詞と 잘[tjal]が同格で並列して後部の動詞を修飾している例や、(16)のように 잘[tjal]で文が終わっているが、「그게 뭔지 잘…(모르겠다) (それが何かよく、、(わからない))」のように動詞部分が省略されている例が3例ずつ見られた。これはすべて動詞を修飾する例である。 잘[tjal]の後に名詞だけで終る例も2例あったが、(17)で見ると通り、「지방관계 공약을 잘 정리해서 능력을 인정 받았다(地方関係公約をよく整理して能力を認定してもらった)」という意味なので、動詞を修飾するものと変わらないと言える。これら(13)から(17)までの例は、副詞本来の機能ということで、副詞は用言のすぐ前に位置するという基本ルールに違反するものとは言えないであろう。これで、 잘[tjal]は典型的な動詞修飾副詞であり、基本的に用言のすぐ前に位置することが言えそうである。

注目すべきなのは、次のように 잘[tjal]の後ろに「名詞+助詞+動詞」が続く場合である。

(18)부러진 뼈는 잘 치료를 해서 다시 불기만 하면 오히려 부러지기 이전의 뼈보다 더 튼튼해질 수 있는 것이다.(2662)

(折れた骨はよく治療をして再びくっつきさえすれば却って折れる前の骨よりもっと強くなれるということである。)

(19)고령층이 기운이 없고 무엇을 물어보아도 잘 대답을 하지 못할 때 치매라고 속단해서는 안 될 것이다. : 「名詞+助詞+動詞」の例

(高齢者が元気がなく何を聞いてもしっかり返事ができない時、痴呆であると速断してはいけないであろう)

잘[tjal]が修飾しているのは直後の名詞ではなく、「치료를 해서(治療をして)」と「대답을 하지 못할 때(返事ができない時)」の述部全体であると考えられる例が65例見られた。「名詞+助詞+動詞」が一つのまとまりとして、 잘[tjal]の修飾を受けているのであろう。全体の0.6%に過ぎないが、남·고(2014)で否定副詞と同等に扱うほど語順が厳しい副詞であるわりには、例外が多いと考えられる。これに関しては次で詳しく見ることにする。



2.3.2 잘[tʃal]が用言のすぐ前に位置しないのはどういう場合で、その位置は述部内に限るか。また、そこには特定の傾向性が見られるか。

まず, 잘[tʃal]が用言のすぐ前に位置しない場合、その位置は述部内に限るかに関してだが、すでに見てきたとおり、その基本ルールに違反する例は「名詞+助詞+動詞」の場合のみであった。即ち、さきほど述べた通り、잘[tʃal]は「名詞+助詞+動詞」を一つのまとまりとして全体を修飾しており、その修飾部の最も近くに位置しているのがであった。当然ながら、성(1992)と임(1999)で指摘した述部の動作主の前を表す文頭に立つ例も見当たらなかった。このことから、副詞の移動範囲は、「用言」の前か「名詞+助詞+用言」の前といった述部内であり、文頭に位置することはないということが言えそうである。

次に、「名詞+助詞+動詞」の65例を観察した結果、以下のような特定の傾向が見られたので紹介する。

(ア)「名詞+助詞+動詞」が連語か慣用句<sup>(11)</sup>である場合：38例

(20) a. '호박미과'는 품질 좋은 쌀로 떡을 빻어 구운 뒤 호박조청으로 맛을 낸 고급 쌀과자로 쌀과 호박이 잘 조화를 이뤄 고소하고 달콤하다.(9117)

(‘カボチャ米菓’は質のよいお米で餅を作って焼いた後、カボチャの飴で味を出した高級お米菓子でお米とカボチャがよく調和を成して香ばしくてあまい。)

b. 그만두라고 악을 쓰고 싶었지만 혀가 잘 말을 듣지 않았다.(6544)

(やめなさいと叫びたかったけど、舌があまり言うことを聞かなかった。)

조화를 이루다(調和を成す)、기억이 나다(記憶が出る：思い出す)、구별이 가다(区別がつく)、납득이 가다(納得がいく)、상상이 가다(想像がつく)、실감이 나다(実感がわく)、짐작이 가다(予想がつく)、눈에 띄다(目につく)のような連語、말을 듣다(言うことを聞く)、뒤를 보살피다(お世話をする)のような慣用句類が65例中、38例(全体の58.46%)あった。これらはすべて名詞と動詞との関係が密接なものである。(20)で見る通り、잘[tʃal]は後部の名詞のみではなく、「잘 조화를 이뤄(よく調和を成して)」「잘 말을 듣지 않았다(あまり言うことをきかなかった)」というふうに句全体を一つの成分として修飾している。これらは、いずれも動詞の前に잘[tʃal]をおいても自然な文である。

(イ)「名詞+助詞+動詞」部分が否定の意味を持つ場合：38例

(21) a. 그리고는 그 물건을 잘 확인도 해보지 않고 우선 허리춤 속에 감춘다.(4507)

(そしてそれをよく確認もせずにまずズボンの下に隠す。)

b. 그럴 경우 우리 문학의 샤머니즘적 체질은 잘 눈에 띄지 않을 가능성이 증대된다.(3072)

(その時、われわれの文学のシャーマニズム的な体質はよく目立たない可能性が増大する。)

65例中、38例(58.46%)あった。副詞잘[tʃal]が「확인도 해보지 않고(確認もせずに)」、「눈에 띄지 않을(目立たない)」の全体を修飾している。否定の意味を持つこれらの動詞句節は、その全体で一つの状態を表すことによって、잘[tʃal]の修飾をうけていると思われる。この場合も、動詞のすぐ前に잘[tʃal]が入っても不自然ではない。

(ウ)「名詞+助詞+動詞」が後ろの名詞を修飾する連体修飾節として使用される場合：9例

(22) a. 한편 고추장도 탄수화물의 가수분해로 생긴 당류의 단맛, 단백질이 분해되어 생긴 아미노산의 감칠 맛, 그리고 고추의 매운 맛과 소금의 짠맛이 잘 조화를 이룬 식품이다.(10798)

(一方、唐辛子味噌も炭水化物の加水分解によりできた糖類の甘い味、タンパク質が分解されてできたアミノ酸の香ばしい味、そして唐辛子の辛い味と塩の塩辛い味がよく調和を成した食品である。)

b. 전면 처마인지, 전면 박공인지 잘 구별이 되지 않는 어정정한 집이다.(10665)

(全面軒なのか全面破風なのかよく区別のつかない中途半端な家である。)

どうい食品であるかについての説明として「잘 조화를 이룬 식품(よく調和を成した食品)」、どうい家なのかについての説明として「잘 구별이 되지 않는 집(よく区別がつかない家)」というふうに副詞と動詞句節が一つのかたまりになって後ろの名詞を修飾している。これらの例も、動詞のすぐ前に잘[tʃal]が入っても不自然ではない。

(エ)「名詞」と「動詞」の間にあえて助詞を入れて、強調の意味を加えている場合：17例

(23) a. 퇴학을 제외한 학생징계는 오히려 학교청소년의 중퇴를 막고 학교에 잘 적응하도록 도울 수 있는 좋은 기회로 삼을 수도 있다.(8038)

(退学を除いた学生懲戒は却って学校青少年の中退を防ぎ学校によく適応するように手助けできるよい機会でもある。)

b. 이 년이 훨씬 넘게 다닌 직장을 그만두고 나는 현재 새로운 직장에서 잘 적응을 하고 있다.(8848)

(二年以上も通った職場をやめて私は現在新しい職場でよく適応をしている。)

「말(을) 하다 (言葉(を)言う/言う)、대답(을) 하다 (返事(を)する)、모면(을) 하다 (謀免(を)する)、치료(를) 하다(治療(を)する)、협조(를) 하다(協調(を)する)」、「상상(이) 되다(想像(が)される)、적응(이) 되다(適応(が)される)、정리(가) 되다(整理(が)される)、진행(이) 되다(進行(が)される)」のようなもので、これらはすべて助詞が名詞と動詞の間になくても使用できる派生語が存在する場合である。実際は、(23)a「잘 적응하도록(よく適応するように)」のように一つの動詞として使用される場合が多い。しかし、(23)b「잘 적응을 하고(よく適応をして)」のように、あえて助詞を入れて強調の意味を加えている。これらの例もすべて用言のすぐ前に副詞をおいても自然だが、書き手の強調する気持ちは無くなると言える。

(オ)「名詞+助詞+動詞」の中の助詞が省略されている場合：5例

- (24) a. 서울에 뿌리를 내리고 살고 있는 사람들은 서울이 좋은지 나쁜지를 잘 구별 [잘?] 못한다.(8446)  
 (ソウルに根を下ろして暮らしている人々はソウルがよいか悪いかをうまく区別[うまく?]できない)
- b. 가령 화려하게 되살아나기를 기대한 죽음과, 공포와 부정감으로 얼룩진 죽음 사이를 잘 다리 [잘?] 놓아주지 못한 것들이 그 결여된 통일성의 일부다.(11154)  
 (たとえ華麗によみがえることを期待した死と恐怖と否定感にまみれた死の間をよく橋渡し[よく]できなかったもののらがその欠如した統一性の一部である。)

(ア)から(エ)までとは違って、잘[tʃal]を動詞の前におくと不自然になる例が見られた。「名詞+助詞+動詞」の中の助詞が省略されている場合である。「잘 구별 못한다(うまく区別できない)」や「잘 다리 놓아주지 못한 것(よく橋渡しできなかつたもの)」は、助詞がないことで一つのまとまった意味を持った動詞のようなものになり、間に副詞が入りにくいものと考えられる。(24)bは、前にある目的語「사이를(間を)」の影響で、「～を～を」が連続することにより、助詞の省略が不可避な場合である。このように、助詞を省略して名詞と動詞が一つの単語のように使用される場合は、副詞を動詞の前におくことは不自然になるということがわかる。

以上で、副詞잘[tʃal]の後部に「名詞+助詞+動詞」の例から見られる傾向について見てみたが、(ア)、(イ)、(ウ)に関しては、連語や慣用句のうえに否定の形をしている例や、連語慣用句と否定の形が重なっているものが後ろの名詞を修飾している例もあり、(ア)、(イ)、(ウ)のどの要素が直接的な理由になっているかは、現時点では把握しにくい。ここで言え

ることは、잘[tjal]は、基本的には用言の前に置くのだが、強調などの文体的な理由により、ほんのわずかな割合で「名詞+助詞+動詞」の前に置いて使われることがあるということ、それは連語や慣用句、否定文、連体修飾節など、名詞と動詞の関係が密接な場合においてよく見られる現象であるということである。

### 3 結論

잘[tjal]をコーパスで調査分析した結果、典型的な動詞修飾副詞であることがわかった。先行研究では、副詞の正常位置が用言の前なのか目的語の前なのかで意見が分かれていたが、殆どの場合が動詞の直前に位置していることから、잘[tjal]の正常位置は用言のすぐ前であることが確認できた。しかし、잘[tjal]が用言の直前に位置せず「名詞+助詞+動詞」の前でその全体を修飾している例もわずかではあるが、実際使われる例として存在することもわかった。また、それらの例を観察した結果、잘[tjal]の位置範囲は述部内であることと、そこにはある一定の傾向が見られることも明らかになった。先行研究では用言の前から移動する理由に関して、文体的な理由とのみ曖昧に指摘されてきたが、今回の調査を通して、(ア)連語や慣用句、(イ)否定文、(ウ)連体修飾節、(エ)強調のための助詞の挿入、(オ)助詞が省略されている場合といった、잘[tjal]が用言から離れて位置する場合の具体的な傾向が見られた。ただ、この点に関しては用例も少なく、今後研究を進めて、他の副詞でも見られる傾向なのかを検証する必要があるだろう。しかし、今回の分析対象잘[tjal]は、最も位置移動に厳しい制限があると言われている副詞である。このたび、明らかになった語順の特徴や傾向は、移動できないものと決まっていた副詞でさえも移動させてしまう語順移動の有力な要素とも考えられるのである。

以上を踏まえて、韓国語教育では、잘[tjal]の語順に関して、基本的には用言(動詞、存在詞)の直前に置くべきであることを指導したうえで、「ア」から「オ」までの例を示し、잘[tjal]が用言の直前から離れて「名詞+助詞+用言」の前に立ち、その述部全体を修飾することがあることを指導できると考えられる。

잘[tjal]は、否定副詞と同様に副詞の中でも位置制限が最も厳しいと言われていた。このように定説となっているものや先行研究で言われていることを実際の言語データで調べて分析することで、その副詞が実際どのように使用されているか、その実態をより明確に把握することができ、また違う視点や問題点を発見することができると考えられる。成分副詞に関しては、語順以外に分類における論争も絶えず、残された課題が多い。今後、他の成分副詞もコーパスを利用し、研究を進めることで、成分副詞の修飾成分の確認はもちろんのこと、語順における傾向や特徴を明らかにし、韓国語教育に役立てたい。

## 注

- (1) 韓国語の副詞を統語論的に分類している손(1995)は、副詞を、文全体を修飾する「文章副詞」と、動詞や形容詞など文章内の一定の成分を修飾する「成分副詞」に分けている。前者は比較的語順が自由であるが、後者は語順に厳しい制約があると述べている。
- (2) 例文の日本語訳は、白(2004)によるものである。
- (3) 以下、本稿におけるすべての用例の日本語訳は筆者によるものである。
- (4) 朴秉洙(1976:152)は[급히 순이는 부엌에서 밥을 먹었다.](急いでスニは台所でご飯を食べた。)のように副詞を文頭において話すことも可能だが、副詞の位置移動とは別の問題であると言い(倒置の一つ)、対象外としている。
- (5) 修飾成分によって位置移動の自由度が異なるということだが、これが事実なら副詞が形容詞を修飾するか動詞を修飾するかといった問題は副詞の語順教育においてとても有意義な手がかりとなるであろう。
- (6) 韓国の文化観光部と国立国語院が一緒に推進してきた21世紀世宗計画によるもので、2007年の事業結果、形態分析750万語節、形態意味分析750万語節、構文分析80万語節の分析規模を持つコーパスである。現代韓国語コーパス(文語、口語)、歴史資料コーパス、並列コーパス(韓英、韓日)に分類され普及活用されている(박문자2013)。
- (7) 現代文語は、さらに新聞、雑誌、本などに分類されるが、このたびは現代文語の全データを対象とした。文語とはいっても口語体の文章も相当含まれていることを考慮すると、新聞データのみを対象とすべきであろう。しかし、新聞に絞ると、ヒットするのは1012件のみで用例数が少なすぎる。どういう用言と共起するかをはじめ、副詞の語順に関わる全般的な傾向を調べるのが本稿の目的なので、今回は全データを分析対象とすることにした。用例のダウンロードは、2015年9月21日から23日にかけて行った。
- (8) 잘못(間違えて)のように잘[tjal]という文字が入っている語彙が間違えて入っていたり, 잘하다(上手だ、うまい), 잘되다(うまくいく)などのように, 잘[tjal]と動詞が一つの動詞になって単語として使われているものが入っていたりしたので、これらは対象外とした。
- (9) 徐(1991:23)では、形容詞が-지다(くなる) -하다(がる)の補助動詞によって派生される場合は、多くの場合<程度>の意味のみが表面化する傾向があると述べている。筆者もたとえ形容詞が動詞化したとしても、修飾する副詞は、その用言が持つ程度性を修飾するものだと判断したため、形容詞に入れることにした。
- (10) ( )の中の番号は、잘[tjal]をコーパスで検索した時の用例番号である。
- (11) 「連語」とは名詞がある特定の動詞とよく共起して現れる構造を指し、「慣用句」とは二つ以上の言葉が習慣的に一つの単語を成して使用され、本来の意味とは異なる特殊な意味を持つ言葉のことを指す。(『연세한국어사전』: p9-10)

## 参考資料

- 『연세한국어사전』(2008) 서울: 두산동아  
『朝鮮語辞典』(1996) 東京: 小学館  
世宗コーパス <http://www.sejong.or.kr>

## 参考文献

### <韓国語の文献>

- 고경태 (2009) 「언어 관계를 통한 한국어 성분 부사 선정에 대한 시론」 『한국어 의미학』 28, pp.29-48, 한국어의미학회
- 고영근·구본관 (2014) 『우리말 문법론』 집문당
- 남기심·고영근 (2014) 『표준국어문법론』 박이정
- 朴秉洙 (1976) 「양태부사에 대하여」 『언어』 1(1), pp.151-167, 한국언어학회
- 박문자 (2013) 『코퍼스 활용과 한국어 교육』 박이정
- 서정수 (2008) 『한국어의 부사』 한국의 탐구32, 서울대학교출판부
- 성기철 (1992) 「국어 어순 연구」 『한글』 제218호, pp.101-138, 한글학회
- 손남익 (1995) 『국어부사연구』 박이정
- 손남익 (1998) 「국어 상정부사어와 공기어 제약」 『한국어 의미학』 3, pp.119-134, 한국어의미학회
- 이정희 (2003) 『한국어 학습자의 오류 연구』 박이정
- 임유중 (1999) 『한국어 부사 연구』 한국문화사
- 정예랜 (2004) 「일본인 한국어 학습자의 부사 사용 연구-학습자 작문의 오류분석을 중심으로-」 연세대학교 교육대학원 석사 학위논문
- 최현배 (1965) 『우리말본』 正音社
- 홍사만 (2002) 「한·일어 정도 부사의 대조 연구」 『언어과학연구』 21, pp.189-222, 언어과학회

### <日本語の文献>

- 金世朗 (2015) 「韓国語成分副詞の語順教育における問題点について—韓国語教育の立場から—」 『新潟国際情報大学国際学部紀要』 創刊準備号, pp.65-71, 新潟国際情報大学国際学部
- 徐常揆 (1991) 「現代朝鮮語の程度副詞について—副詞<아주>의<程度>と<樣態>の意味を中心に—」 『朝鮮學報』 140, pp.1-62, 朝鮮學會
- 白峰子 (2004) 『韓国語文法辭典』 三修社